



人と環境をこの手で守る。

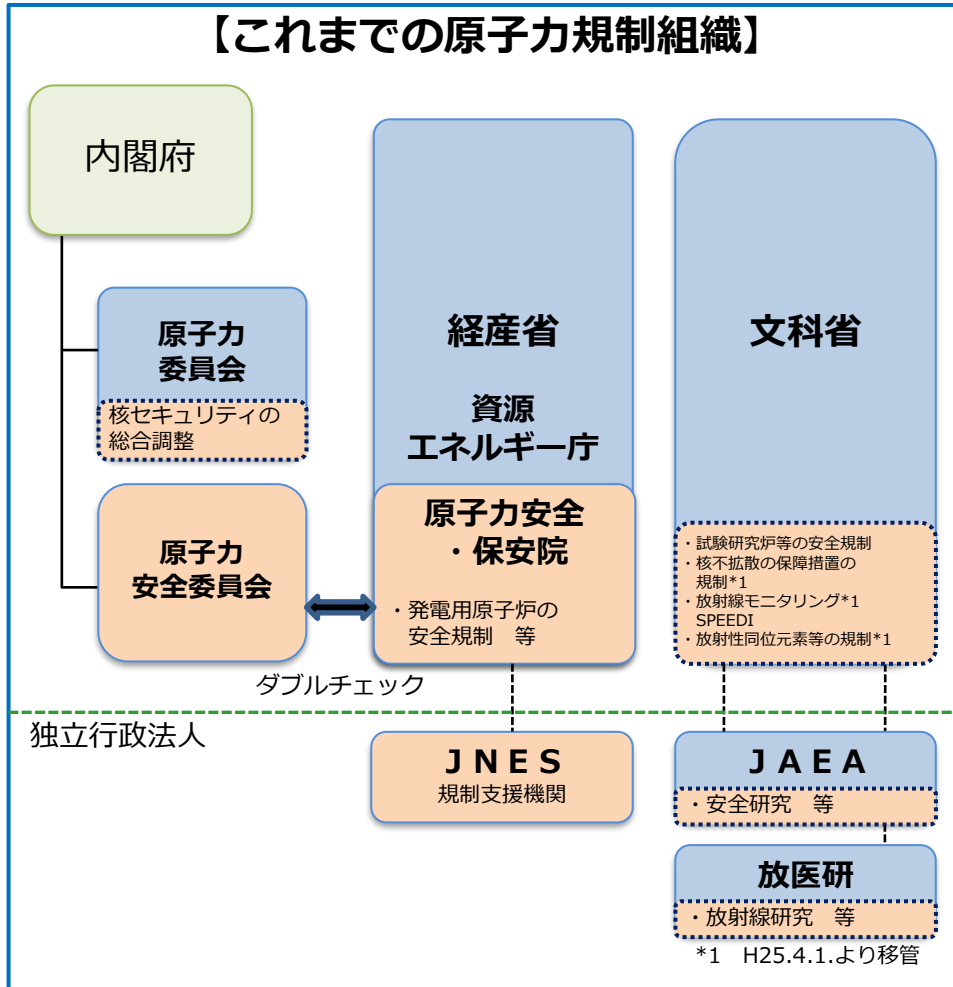
原子力規制委員会について

原子力規制委員会

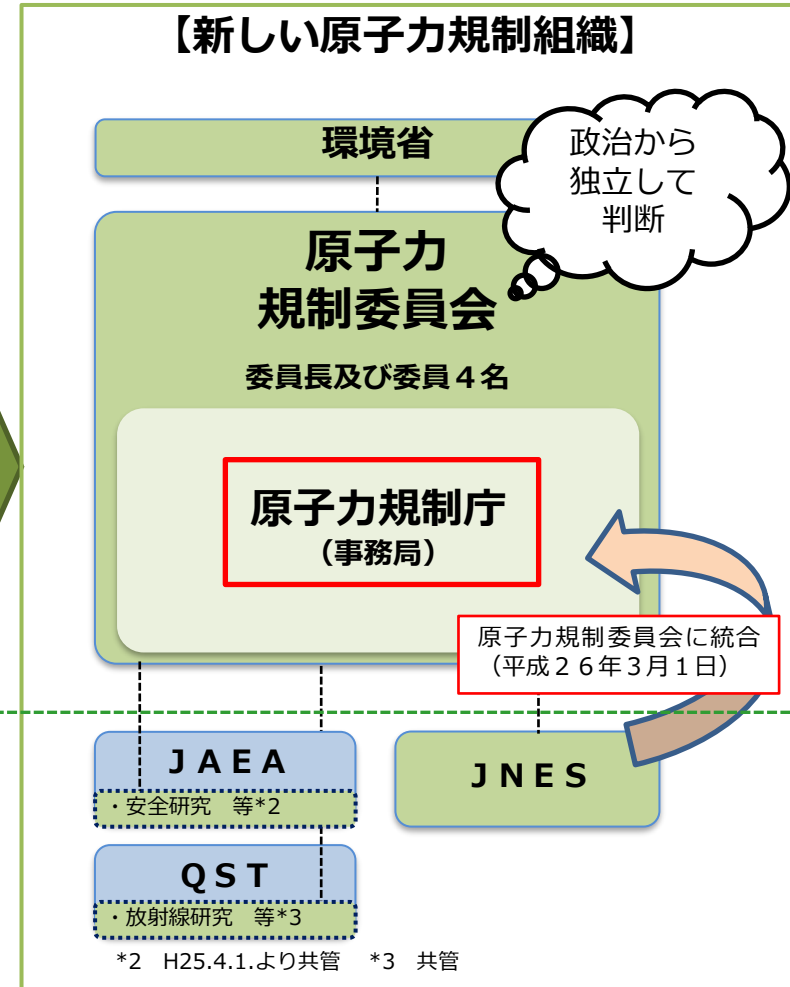
発 足

原子力規制体系を再構築し、国民の信頼を回復するために、平成24年9月19日、原子力規制委員会が発足しました。

【これまでの原子力規制組織】



【新しい原子力規制組織】



原子力規制委員会の組織

原子力規制委員会 (環境省の外局：政治から独立した委員会)



定員 1,133人 (R6.4時点)

原子力安全人材育成センター

原子力規制庁 (委員会の事務局)



原子力施設の審査・検査

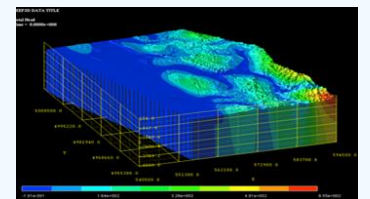
セキュリティ・保障措置



原子力防災・放射線防護

安全研究

規制を支える業務 (国際、広報、法務、会計、総務 など)



原子力規制委員会の使命と活動原則

【使命】

原子力に対する確かな規制を通じて、人と環境を守ること



業務について

原子力規制委員会の業務

原子力施設の審査・検査

◆審査



- 原子力施設の設計、保安規定の審査【許可・認可】

◆検査



- 原子力施設の巡視や保安活動の監視

◆福島第一原発事故への取組

- 事故による汚染水対策・廃炉作業の規制
- 事業者による福島第一原発事故後の対策を定めた「実施計画」の審査、現場での検査



原子力規制委員会の業務

現場での監視

全国の原子力施設の近くには、
原子力規制庁の原子力規制事務所が設置されています。

全国22力所の
「原子力規制事務所」



- ✓ 駐在する職員は、原子力施設の巡視や保安活動の監視、原子力災害が起きた時の対応など、現場に密着した規制活動を担っています。



現場パトロール



事業者の保安活動の検査



原子力防災訓練

原子力規制委員会の業務

原子力防災・放射線の監視と規制

◆原子力防災



➤原子力災害対策指針の策定

関係省庁や自治体が円滑に対策を行い、放射線の影響を最小限に抑えるための指針を策定し、継続的に改正。

➤原子力総合防災訓練

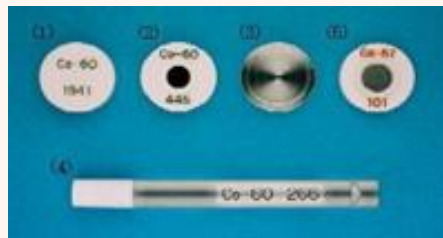
関係省庁や自治体等と連携して年1回実施。
規制庁内の緊急時対応センター（ERC）や現地対策本部で、情報収集や防護措置の検討にあたる。

◆放射性同位元素等の規制

- 医療、農業、研究など様々な分野で使われている放射性同位元素（RI）の使用等を、審査や立入検査などを通じて規制



放射線発生装置



密閉された放射性同位元素

◆環境放射線の監視



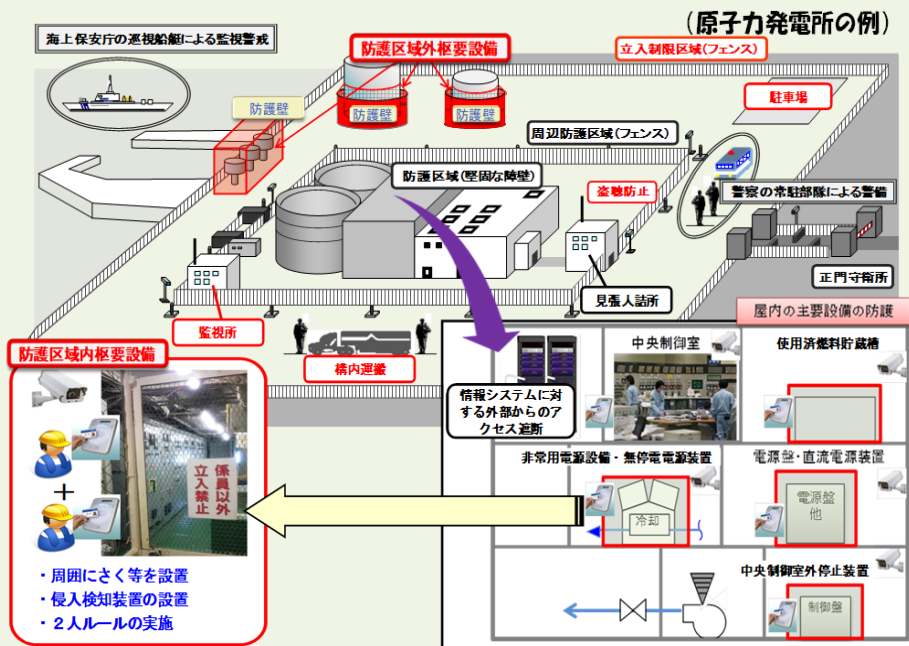
緊急時放射線モニタリング情報共有・公表システム

- 原子力施設周辺のモニタリングシステム整備
- 原子力災害時、測定の中心的な役割を担う

原子力規制委員会の業務

セキュリティ・保障措置

◆テロ対策



- テロ等の犯罪行為から核燃料物質を防護
- 事業者が定める「核物質防護規定」の審査
- 防護措置の実施状況の検査

◆保障措置

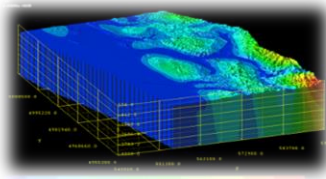


- 核不拡散条約の下、国際原子力機関（IAEA）との国際約束に基づき、平和的活動に限って使用されるべき核物質が核兵器などに転用されていないことを確認
- 具体的には、IAEAと共同で原子力施設における核物質の在庫量などの確認（査察）を実施

原子力規制委員会の業務

規制機関における安全研究

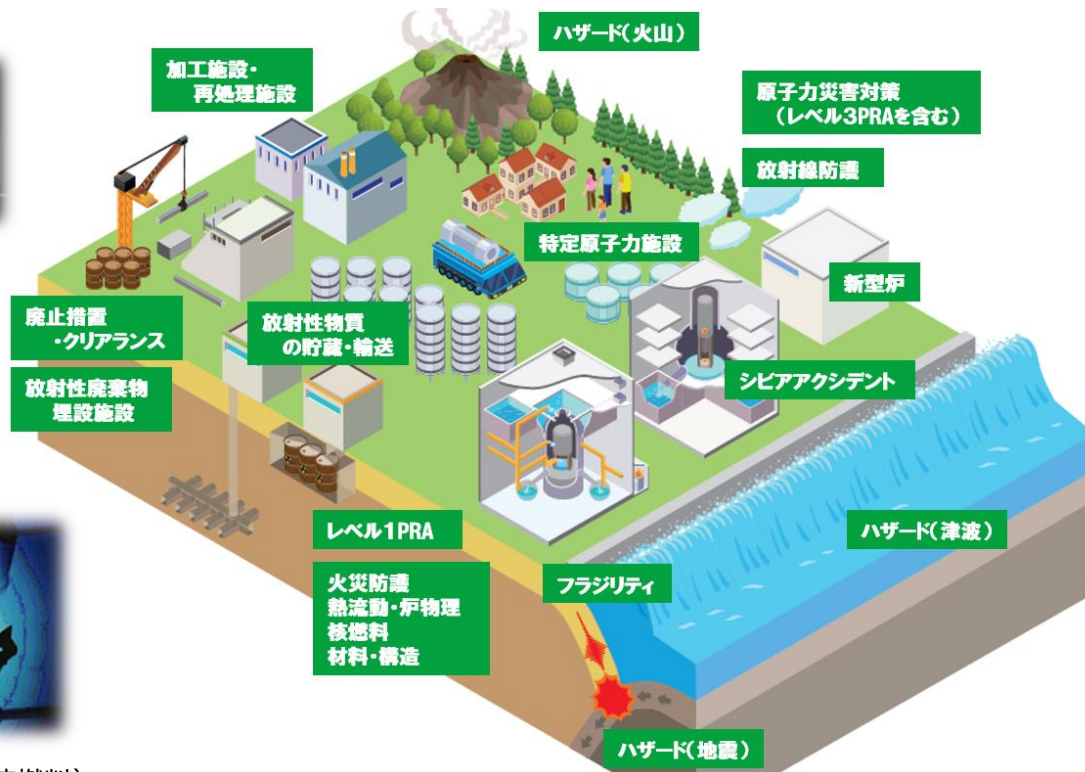
- 規制基準の整備に必要な知見の収集・整備
- 審査・検査において科学的・技術的判断に必要な知見の収集・整備
- 規制活動を遂行するに当たり必要な手段の整備
- 将来的に役立つ知見の創出や高度な専門性を持つ人材等の技術基盤の構築・維持



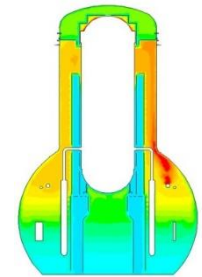
安全評価のための地下水
流動解析（廃棄物処分）



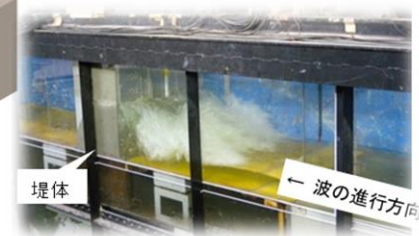
反応度事故模擬実験（核燃料）



原子力規制庁で実施する安全研究の分野



格納容器内の数値流体解析
（シビアアクシデント評価）



防潮堤水理試験（建築物の健全性）

原子力規制委員会の業務

国際活動

◆国際機関との連携

- 原子力規制庁では、原子力に関する国際機関だけでなくアジア・欧米諸国と連携を行い、国際会議への参加、大使館や国際機関への長期の職員派遣等を積極的に行っています。
- このように海外に意見を発信することを通じて、国際的なルール作りへ貢献し、また、海外の知見を国内の規制へ反映しています。

※ 原子力に関する国際機関：国際原子力機関（IAEA）、経済協力開発機構／原子力機関（OECD／NEA）、諸外国の原子力規制機関など



東京電力福島第一原子力発電所事故後 10 年の
規制活動に関する国際規制者会議
(OECD/NEAと共催)



IAEA本部
(ウィーン)



原子力規制委員会の業務

広報・広聴業務

◆透明性のある活動

- 週3回の記者会見等や、原子力規制委員会、審査会合の様子などをリアルタイムで配信しています。
- 原子力事業者との面談記録の公開、原子力施設の立地自治体との意見交換などにより、規制に関わる取組を積極的に公開、説明しています。
- 大規模地震発生時などの緊急時には、原子力施設への影響に関する情報を迅速に発信します。



記者会見の様子
(左：山中委員長、右：広報室長)



会合の動画配信
(Youtubeチャンネル)

原子力規制委員会の業務

法令・訴訟への対応

- 原子力の規制に係る法令案の作成、法令や行政処分の事前審査や、行政訴訟、東京電力福島第一原子力発電所事故といった国家賠償訴訟への対応などを行います。
- 訴訟対応では、原子力規制委員会が行った許認可の判断などに対する訴訟について、事実関係や科学的知見等の調査や対応方針の作成などを行い、実際に裁判所へ出廷することもあります。



原子力規制委員会の業務

規制を支えるバックオフィス業務

- 規制業務を円滑に実施するには、審査・検査等だけでなく、物品、人材、予算の確保や様々な手続きを行うバックオフィス業務も重要です。
- これらの業務は効率的に、正確かつ速やかに行うことが求められます。

◆ 人事

- ✓ 業務説明会などの職員採用活動
- ✓ 本人の適性や希望に応じた配置転換
- ✓ 経歴などを踏まえた給与額の算定
- ✓ 休暇取得の推奨など、職員のワークライフバランス向上に向けた取組
- ✓ 定期健診の案内や健康相談など、職員の健康管理



◆ 会計

- ✓ 原子力規制委員会として要求する予算の取りまとめ及び財務省との調整
- ✓ 適切な予算支出（物品購入等）実施の確認・審査及び支払い手続き
- ✓ 購入した物品やオフィスの管理



人材育成について

能力向上のための研修

- ✓ 原子力の安全規制を行うためには、高度な専門的判断が求められます。
- ✓ 原子力安全人材育成センターでは、職員の能力を向上させるための様々な研修を企画し、実施しています。
- ✓ 研修には、原子力の基礎知識から規制に必要な知識を継続的に習得していくためのカリキュラムが用意されています。

座学研修



法令から専門知識まで、様々な座学研修を実施

プラントシミュレータ



原子力発電所の中央制御室を模擬したシミュレータによる研修

原子力規制事務所研修



現地事務所において検査の最前線における業務を体験

国際性向上研修

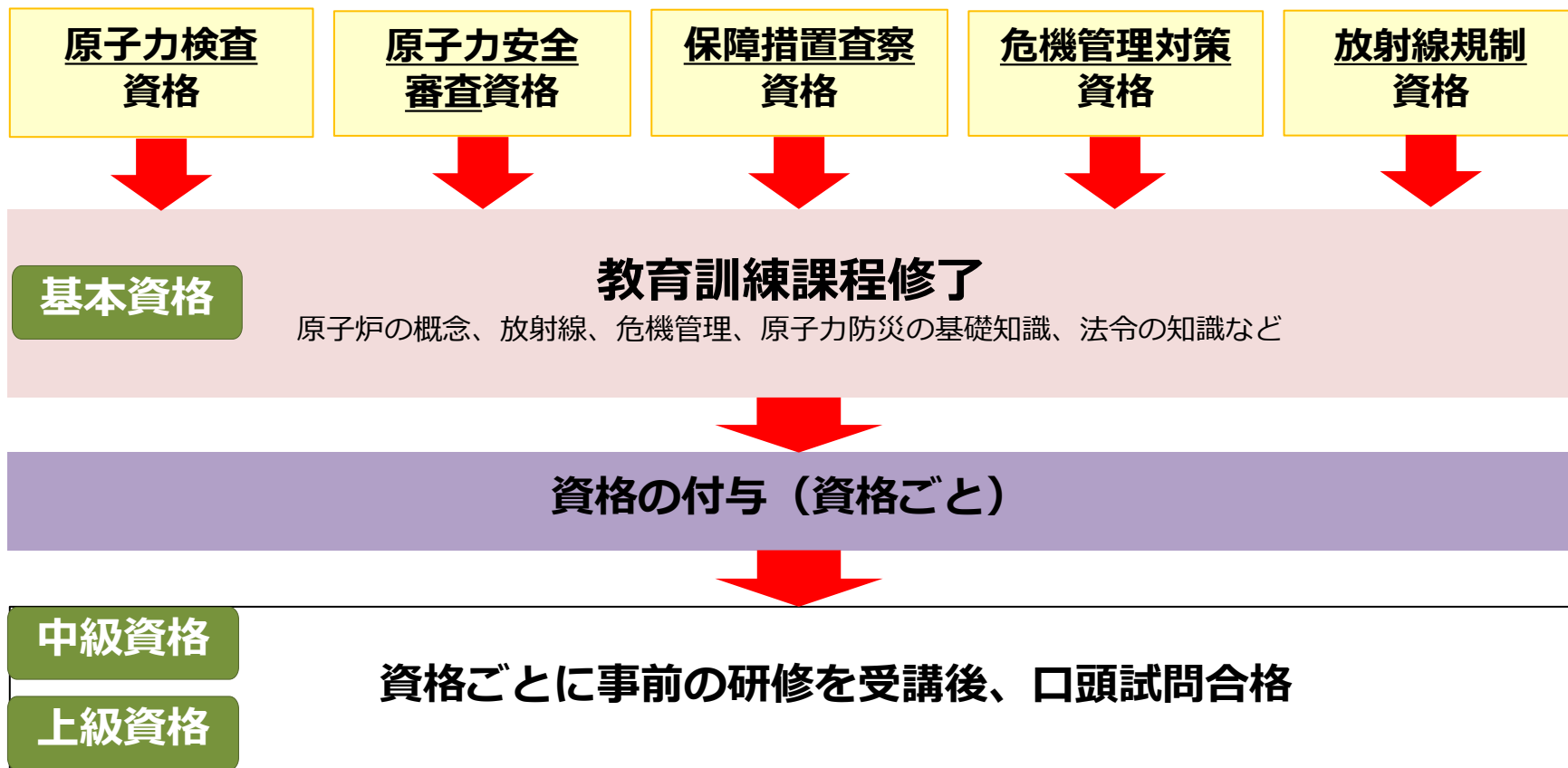


海外の原子力関係機関等での短期派遣研修

こうした研修以外に、語学研修、原子力専門職大学院などへの留学や、海外留学や短期海外研修派遣、海外の規制当局への派遣などのプログラムなどがあります。

教育訓練課程のイメージ

- ✓ 審査・検査等の業務を担う高度専門職の専門性を確保するため、2018年度に独自の任用資格制度を設け、運用しています。
- ✓ 審査官、検査官などの高度専門職に着任するには、教育訓練課程の修了又は口頭試問の合格により、対応する任用資格を取得する必要があります。



業務環境について

職場の雰囲気・働き方

- ✓ 風通しのよい職場：透明で開かれた組織として、若手であっても積極的に議論に参加する環境になっている。
- ✓ まだ若い組織なので、いろいろな業務にチャレンジできる。

メリハリのある勤務時間

- ✓ 定時退庁日の設定
- ✓ 計画的な年休、夏季休暇の取得推奨

働き方の多様化

- ✓ フレックスタイム制度の活用など、業務特性や家庭の事情に合わせた勤務時間の多様化
- ✓ テレワークの実施

仕事と家庭の両立

- ✓ 出産、育児、介護等にかかる休暇等制度の取得の推奨

育児関係休暇取得率

※令和4年度



育児関係休暇

- 育児休業
- 配偶者出産休暇
- 育児のための休暇

夏季休暇取得率

※令和4年



年間総超過勤務(残業)時間数

※令和4年



本庁平均

275.9 時間/人

他本府省平均

397.3時間

平均年休取得日数

※令和4年



本庁平均

14 日

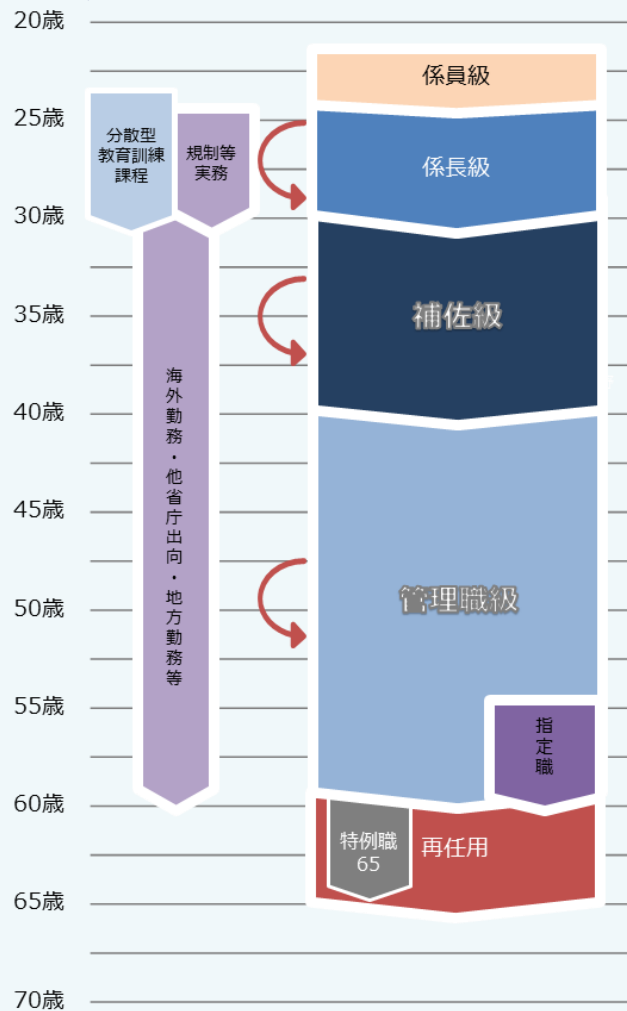
他本府省平均13日

キャリアパスについて

キャリアパスイメージ

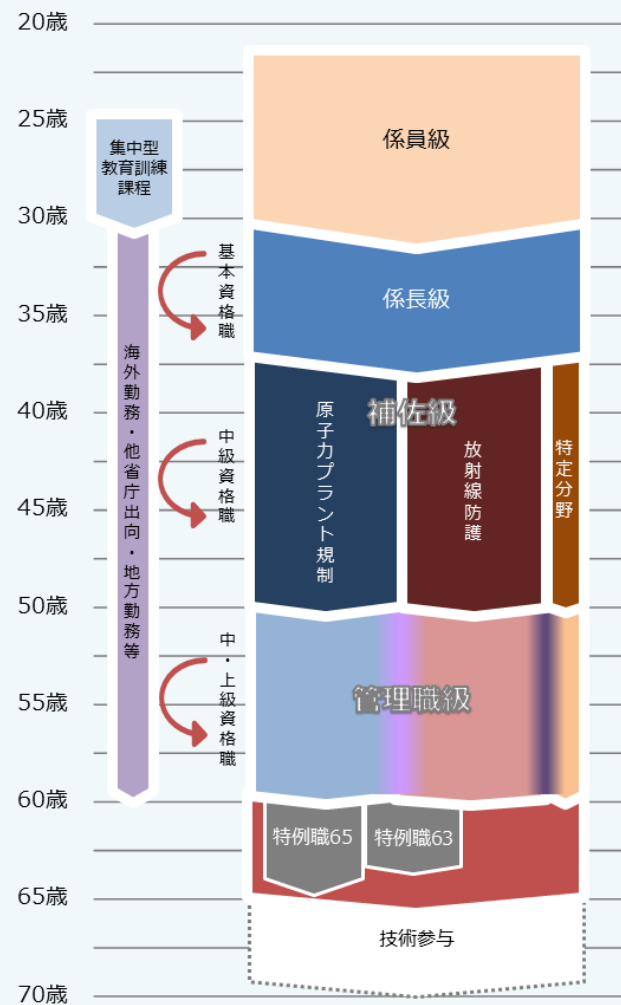
技術系職員の例①

◆総合職



特例職65：地域原子力規制総括調整官

◆一般職

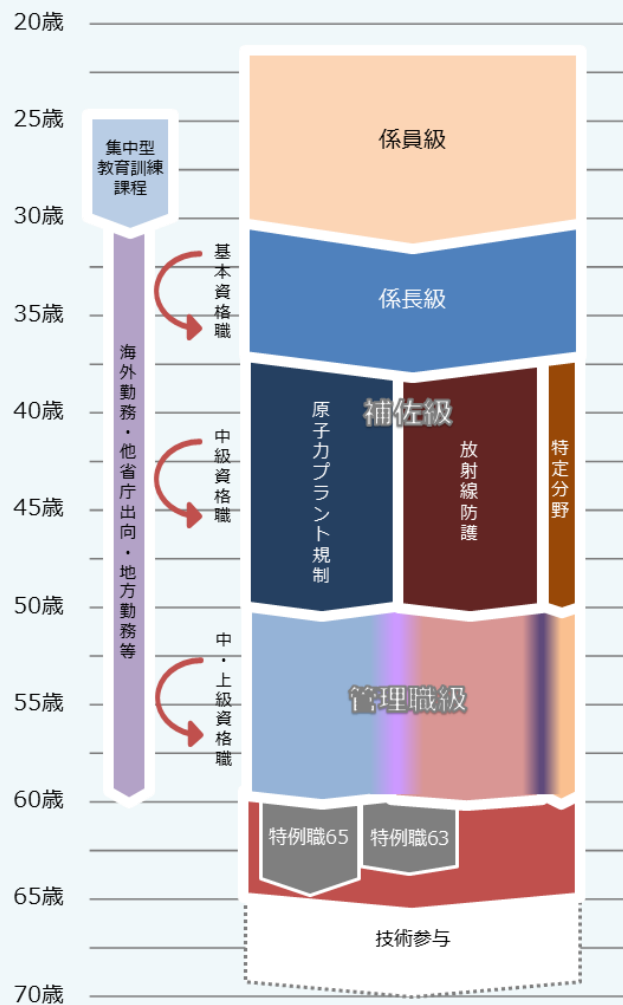


特例職63:原子力防災専門官、主任安全審査官、原子力運転検査官 等
特例職65:地域原子力規制総括調整官、安全規制調整官、上席監視指導官 等

キャリアパスイメージ

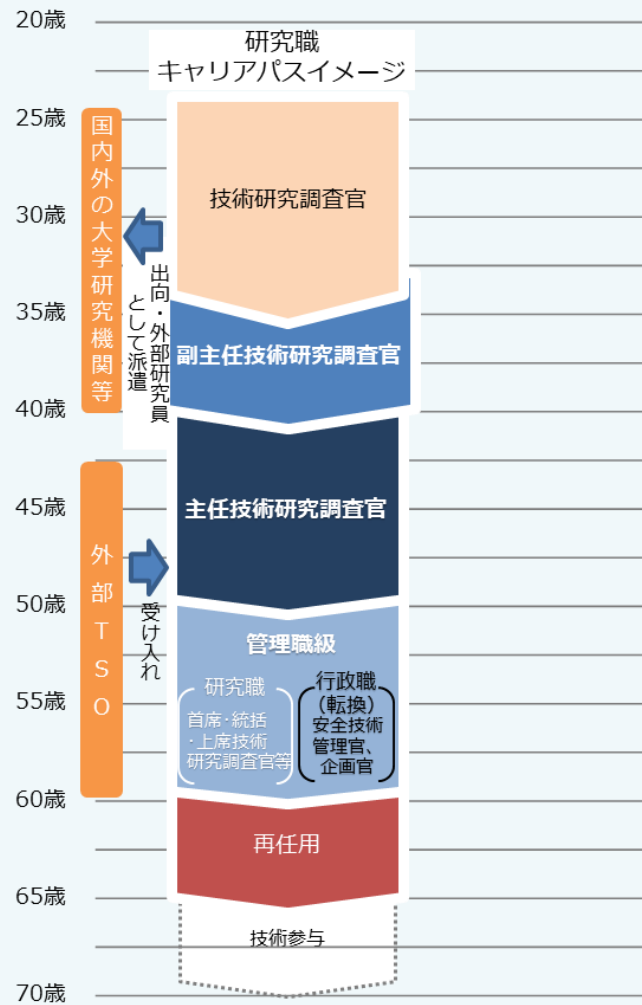
技術系職員の例②

◆一般職



特例職63:原子力防災専門官、主任安全審査官、原子力運転検査官 等
 特例職65:地域原子力規制総括調整官、安全規制調整官、上席監視指導官 等

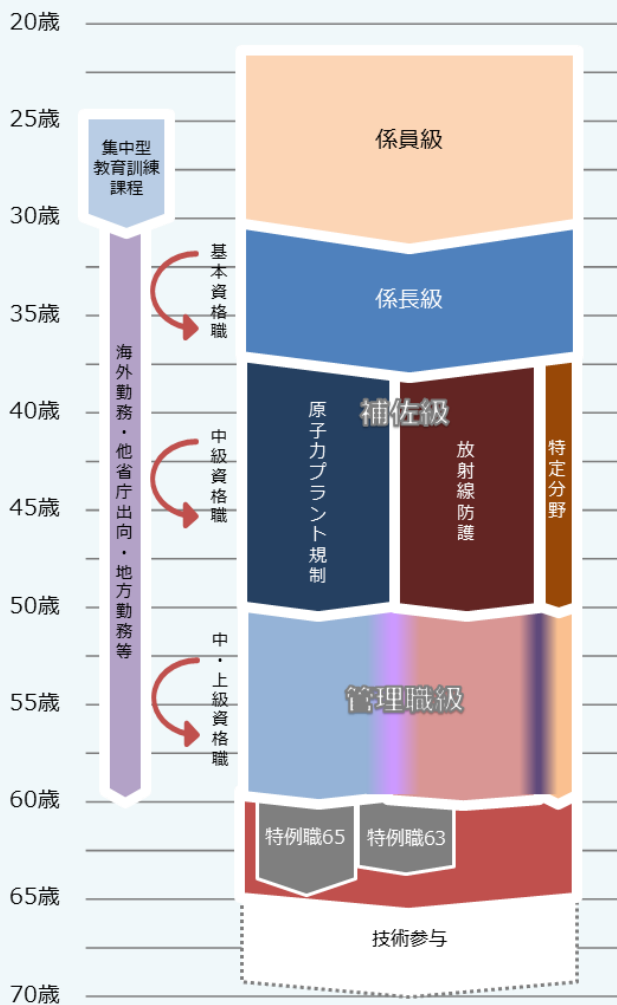
◆研究職



キャリアパスイメージ

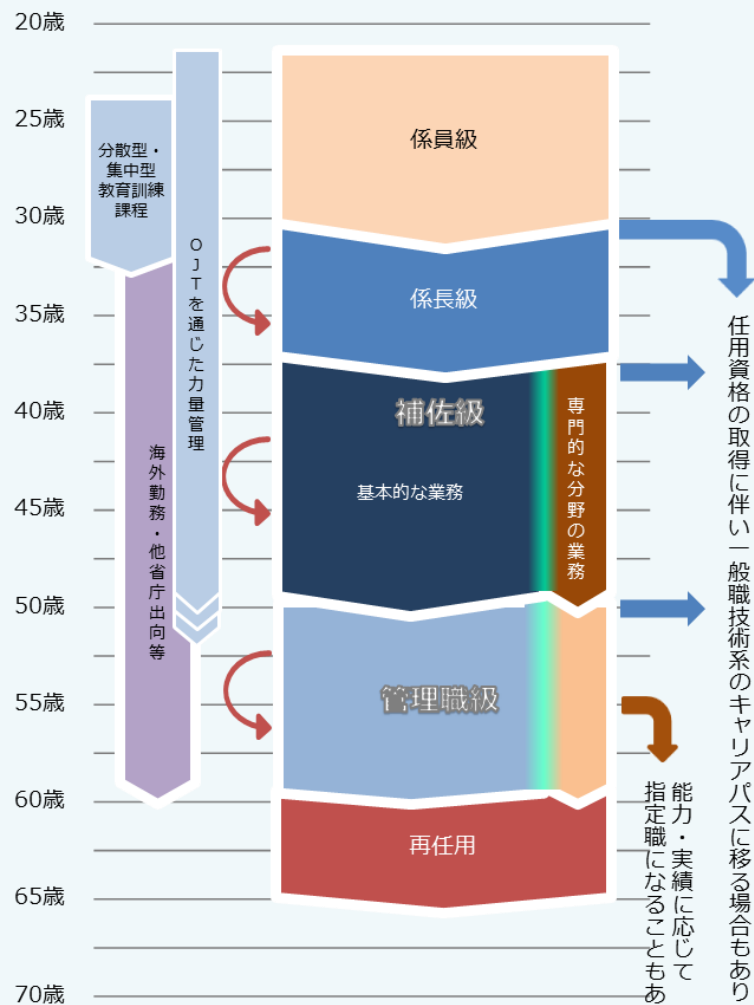
一般職の例

◆技術系



特例職63:原子力防災専門官、主任安全審査官、原子力運転検査官 等
 特例職65:地域原子力規制総括調整官、安全規制調整官、上席監視指導官 等

◆事務系



原子力規制委員会 採用情報

○原子力規制委員会採用ページ

- ✓ 人事院国家公務員試験採用
- ✓ 原子力工学系試験採用
- ✓ 研究職選考採用



○業務説明会 随時開催中！

詳細はHPへ



申込みお待ちしております！

○オンライン個別相談 随時申込受付中！

職員とじっくり相談できる個別相談



利用者から
好評いただいております！

○若手職員による組織紹介（YouTube）



原子力規制庁に入庁した職員が、技術系・事務系、それぞれの立場から原子力規制の業務についてご紹介します。

Please
watch!



**ご参加いただき、
ありがとうございました。**